編集後記

ノーベル賞を受賞された田中耕一氏が，先日講演に来られた時に，「研究室や教室での部下や学生への研究指導の在り方」に関し，以下のご意見を頂いた．

『部下や学生が，上司や教員から細かく指示され，自身では深く考えず，指示されたとおりに研究を行った結果，もし期待どおりあるいは期待以上の結果が得られても，本人はあまり嬉しくはないだろう．しかし，その場合に，もし研究を進めても上手く行かなかったら，本人は，上司や教員の非にし，しかもそれ以上，失敗の原因などを深く考えたりはしないだろう．

一方，部下や学生が，自ら考えて研究を進めた場合に，期待どおりあるいは期待以上の結果が得られたら，本人は格別の嬉しさを味わうし，それによって自信も得るだろう．もし研究を進めて上手く行かなかったとしても，自分が発案したことなので，他人のせいにもしないし，意欲があれば，自ら次の試行錯誤を続けるだろう．』

研究を進める場合には，「主体性」が重要と言うことだろう．上司や教員の立場からは，ご自身の豊富な経験や専門知識を何とか若い人に早く伝えたいだろうし，若い人がのんびり進めているのを待っていられない時も多い．したがって，上記の内容に私の考えを付け加えるならば，「部下や学生があたかも主体性をもって研究開発を進めているかのように，上手に指導して錯覚させること」が，優れた上司や教員なのだろう．例え答えを知っていても部下や学生に考えさせる，常に「主体性」を錯覚させること（上司や教員の掌の上に収めること）が，優れた上司や教員“秘術”なのだろう．学会への論文投稿も活用しながら，若手が自身の可能性を「自ら引き出すこと」をお手伝いすることが，次代を担う「骨太の研究者」の育成に繋がると期待したい．

金井　浩
東北大学大学院工学研究科電子工学専攻
／医工学研究科医工学専攻

超音波医学
Japanese Journal of
Medical Ultrasonics
第42巻　第1号（通巻第285号）
© The Japan Society of Ultrasonics in Medicine
――禁転載――
本体価格　2,000円＋税（本誌購読料は会費に含まれます．）

平成27年1月15日発行
編集者　一般社団法人日本超音波医学会編集委員会　委員長　金井　浩
発行者　一般社団法人日本超音波医学会　理事長　工藤　正俊
〒　101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23-1
お茶の水センタービル6階
TEL 03-6380-3711
FAX 03-5297-3744
印刷所　大村印刷株式会社